

令和3年3月30日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岩手県盛岡市内丸10番1号  
管理機関名 岩手県教育委員会  
代表者名 佐藤 博

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日(契約締結日)～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 岩手県立大槌高等学校

学校長名 瀬戸和彦

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト(大槌高校魅力化構想)

4 研究開発概要

(1) 人材育成のためのカリキュラム検討

教育課程全体を再検討し、地域のリーダーを育成するためのカリキュラムの構築。

(2) 学校設定科目「三陸みらい探究」のブラッシュアップ

1年目の内容を見直しながら、より主体的な探究活動の推進。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
牧 野 篤	東京大学教育学部 教授	
廣 田 純 一	岩手大学農学部 名誉教授	
田 中 潔	東京大学国際沿岸海洋研究センター 准教授	
伊 藤 正 治	前大槌町教育委員会教育長	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

通番	機関名	機関の代表者
1	岩手県教育委員会（管理機関）	佐藤 博
2	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	青山 潤
3	大槌町教育委員会	沼田 義孝
4	認定 NPO 法人カタリバ	今村 久美
5	大槌町	平野 公三
6	大槌町商工会	菊池 良一
7	大槌町立学校長会	松橋 文明
8	大槌町議会	小松 則明
9	大槌高校 P T A	東梅 康悦

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	菅野 祐太	NPO 法人カタリバ	常勤
地域協働学習実施支援員	三浦 奈々美	NPO 法人カタリバ	常勤
地域協働学習実施支援員	起塚 拓志	NPO 法人カタリバ	常勤

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1名特別加配		運営指導委員会	魅力化&コンソ会議	教育課程審査・助言	教育課程審査・助言		学校視察・助言	魅力化構想会議		運営指導委員会	魅力化&コンソ会議

(2) 実績の説明

ア コンソーシアムに係る実績

本事項ではコンソーシアムの取り組みと大槌高校魅力化構想会議の取り組みは相互に関連しており、大槌高校魅力化構想会議の取り組みについても列記する。

活動日程	活動内容
令和2年6月12日	令和2年度第1回運営指導委員会
7月13日	第6回魅力化構想会議兼第1回コンソーシアム会議（書面決議） ・令和元年度事業報告並びに令和2年度事業計画を協議、承認。

12月22日	第7回魅力化構想会議 ・来年度の事業方針、関係機関との調整・要望を協議、承認。
令和3年2月15日	第2回運営指導委員会 ・今年度の事業に対する助言
3月26日	第8回魅力化構想会議兼第2回コンソーシアム会議 ・令和2年度事業報告並びに令和3年度事業計画を協議

イ カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

(ア) 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

認定NPO法人カタリバ 菅野祐太氏（町からNPOへの業務委託） 週5日常駐

(イ) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
毎月1回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取り組みの進捗や運営指導委員会やコンソーシアム等開催された会議の内容を共有
不定期	・コンソーシアムと魅力化に関する会議の企画運営 ・教育課程検討会議に参加 ・町立学校コミュニティースクール等の会議に参加

ウ 地域協働学習実施支援員について

(ア) 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

認定NPO法人カタリバ 起塚拓志氏（町からNPOへの業務委託） 週5日常駐

認定NPO法人カタリバ 三浦奈々美氏（町からNPOへの業務委託） 週5日常駐

(イ) 実施日程・実施内容

地域協働学習実施支援員の活動実績について、具体的に記入すること。

日程	内容
毎月1回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取り組みについての共有
毎週1回	・1・2年生の総合探究の企画・運営 ・学年団教員との打ち合わせし、次回の授業の方針を決定
令和2年7月1日	マイプロブラッシュアップデー ・生徒の探究活動に助言できる地域の方々を招いてアドバイスをもらった。オンラインを含め20名参加
令和2年7月5日	「大槌発みらい塾！」の企画運営 ・地域の方々による1・2学年向け職業講話
9月～	・ICT機器の活用・管理 ・およびオンライン探究連携の企画運営
年2回	・地域協働事業の評価および集計・分析
年継続	・探究のルーブリック評価の構築
随時	活動の発表および紹介 ・地域の中学校を訪問し中学生に高校を紹介

	・来校者に探究活動について説明・紹介
--	--------------------

エ 運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和2年6月12日	令和2年度第1回運営指導委員会 ・今年度事業計画と令和3年度に向けた教育課程編成について指導助言を受けた。
令和3年2月15日	第2回運営指導委員会 ・探究発表会と併せて開催

オ 管理機関における取組について

(ア) 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・大槌町からカリキュラム開発等専門家1名、地域協働学習実施支援員2名の配置
- ・管理機関による、継続的な取組を行うための教職員の特別加配1名

(イ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

本事業により開発した研究内容について、事業終了後も充実発展させていくとともに、管理機関により、所管する高等学校へ広く周知していく。

また、学校設定教科及び学校設定科目の実施について、適切な教育課程となるよう指導助言を行う。

大槌町では、大槌町教育大綱（平成30年3月公示）、大槌町第9次総合計画（令和元年3月公示）、大槌町子供の学び基本条例（令和元年3月公示）において「地域を舞台とした魅力的な高校教育の実現」を示しており、上述の通り高校魅力化推進員を3名配置した。

また、令和元年11月には、大槌高校魅力化構想骨子（第1期大槌高校教育振興計画）を示して令和11年度までの教育計画を策定し、町と高校、地域が拠って立つべき指針を明確にしているため、事業終了後も積極的に本取り組みを行っていく。

(ウ) 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

大槌町と大槌高校は「震災伝承推進活動に関する協定」を交わし、町の文化交流施設で本校の特徴的な取り組みである復興研究会の常設展示を行っている。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	通年実施											

三陸みらい探究 (1年生)	オリエンテーション	自分プレゼン	大槌発みらい塾	SIM おおつち	ラーニング・ジャーニー	探究発表会
三陸みらい探究 (2年生)	マイプロジェクト	大槌発みらい塾	マイプロジェクト	探究発表会		

## (2) 実績の説明

### ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### (ア) 人材育成のためのカリキュラム検討

ワーキンググループを立ち上げ教育課程を検討し、資質能力をはぐくみ地域の復興リーダーを育成するためのカリキュラムを編成し令和3年度から実施する。

### 大槌高校 地域との協働によるリベラルアーツカリキュラムについて

#### 1 リベラルアーツとは？

リベラルアーツとは「自由な学び」であり教科の垣根を越えて知識を互いに関連づけ、統合し、広く知識の交流をすることを通して批判的な思考力と創造的な発想力の涵養を目指す教育です。

#### 2 本校の目指すリベラルアーツカリキュラム

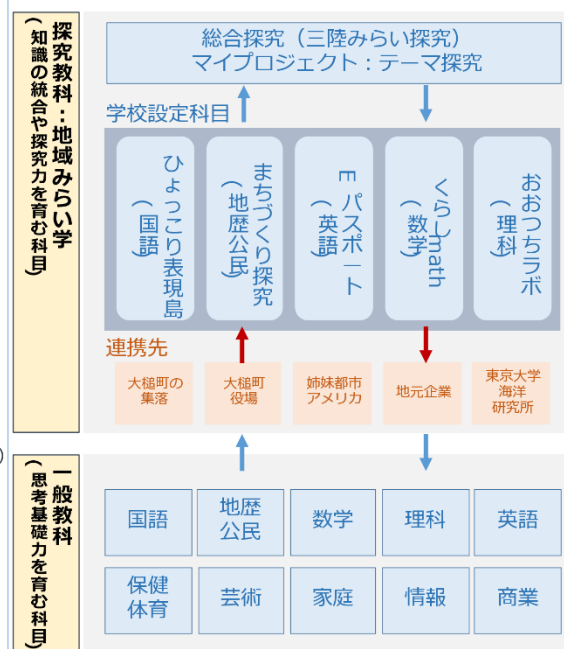
本校の立地する地域には復興や人口減少などの解決の難しい課題が山積みです。実際に起こっている地域や社会の抱える複雑な課題に自ら問いを立て、教科で学んだベーシックな学力を活かしながら、探究することのできる力を育みます。

#### 3 学校設定教科「地域みらい学」とは？

地域みらい学の特徴は以下の4点です。

- 主体性** 生徒が自ら考えて行動する様々な題材を選定し、学習者中心の授業を行います。
- 地域性** 地域が実際に直面している課題（オーセンティックな課題）に地域の方々と共に解決策を探りながら協働し、深く学んでいきます。
- 横断性** 各教科で得た知識を応用し探究的な学習を進め、その学習を深い専門教科の学びに発展させていきます。
- 開放性** 発表会や映像など成果物や学びのプロセスを地域社会に広く発信していきます。

#### ■大槌高校のリベラルアーツカリキュラム



#### (イ) 学校設定科目「三陸みらい探究」による資質能力の育成

三陸みらい探究では、2学年において各生徒がテーマを設定して行うプロジェクト学習を実施した。1学年ではその準備段階として、自己理解活動や大槌町の行政課題を知る活動、課題解決の事例視察や体験活動等の機会を設定した。

[1年生の活動]

時 期	内 容	各単元のねらい (連続性)
5月～6月	<b><u>自分紹介プレゼンテーション</u></b> 探究を進めていくために必要な課題設定力を育むために、自己発見・自己理解を通して自分なりの視点を獲得した。自分を紹介するプレゼンテーションを作成し、町内の中学生に発表した。	<b>[自分を内省し表現する]</b> 相手に伝わるよう表現することを通じて自己を内省する。
7月	<b><u>大槌発みらい塾!</u></b> 町内外の多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、自分の将来を考える材料とする。町内外で働く大人(大学生2名含む)を10名招き、歩んできた進路や仕事のやりがいについて小グループごとにヒアリングを実施した。	<b>[生き方を知る]</b> 他者の生き方や進路をみつめることを通し、地域や社会へどう関わりたいかを考える。
8月～9月	<b><u>1週間マイプロジェクト</u></b> 自分が普段気になっていることから、1週間の間に行うことのできるプロジェクトを各自で設定し、プロジェクトによって解決できたことを振り返った。	<b>[課題解決の枠組みを知る]</b> 身近なテーマで小さなプロジェクトを実践し、課題解決の作法を知る。
10月～11月	<b><u>SIMulation おおつち 2030</u></b> 町行政の事業全体を学ぶことを通して、町の課題について理解を深めることと同時に、理想とする町の姿について考えた。 町の総合計画で掲げられた事業をグループごとに調べ、将来の大槌町で残していきたい事業の優先順位を考えた。	<b>[地域課題を知る]</b> 町の行政課題を知り、幅広い領域から考える視野をもつ。
12月	<b><u>三陸復興ラーニングジャーニー (SIMulation おおつち町外視察)</u></b> 大槌町と同様の課題を抱える三陸沿岸の市町村のまちづくりを支える事業者への視察や体験を通して、大槌町における課題の解決策を考えた。三陸沿岸で地域の課題に向き合い活動している取り組みの視察や、体験をグループに分かれて行った。	<b>[他地域の課題解決策を知る]</b> 地域課題解決のモデルケースにふれ、自地域での課題解決を考える。
2月	<b><u>大槌町の未来像を考える (SIMulation おおつち最終発表)</u></b> 理想とする大槌町を実現するための提案することを通して、地域社会の課題解決に向けた具体的な方策を考える力を高める。 大槌町の理想像と、その実現に向けた提案を各グループでポスターにまとめて発表する。	<b>[自地域における課題解決の方策を知る]</b> 理想の実現に向けた方策を考える。

[2年生の活動]

時 期	内 容	各単元のねらい (連続性)
5月～7月	<b><u>マイプロジェクト①テーマ設定</u></b>	<b>[マイプロジェク</b>

	<p>短期間でのプロジェクト活動や大人への相談活動を通して、個人に興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちよこっとマイプロジェクト 個人で身近な題材から問いを設定し、1週間で調査を行い得られた成果を報告した。</li> <li>・マイプロジェクト・ブラッシュアップデイ 生徒が考案したテーマについて、エキスパートの大人からアドバイスやプロジェクトのアイデアをもらう相談会を開催した。</li> </ul>	<p><b>ト探究に向けた課題を設定する]</b></p> <p>個人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定する。</p>
7月	<p><b>大槌発みらい塾!</b></p> <p>町内外の多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、自分の将来を考える材料とした。町内外で働く大人(大学生2名含む)を10名招き、歩んできた進路や仕事のやりがいについて小グループごとにヒアリングを実施した。</p>	<p><b>[仕事と探究を接続する]</b></p> <p>地域課題解決のモデルケースにふれ、自地域での課題解決を考える。</p>
10月～2月	<p><b>マイプロジェクト②課題解決アクション実践</b></p> <p>課題解決に向けたアクションを行いながら設定した問いを探究することで、課題解決を行う資質能力を総合的に育成した。定期的に成果報告の機会を設け、考えを相手へ伝える力を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ活動 個人またはグループでテーマ設定を行い、課題設定から解決策実施までの流れを繰り返し実施した。テーマに応じてゼミに分かれ、教員が分担して生徒の活動を支援した。</li> <li>・中間発表会(10月)</li> <li>・オンライン探究連携(10月・12月) 山形県・熊本県の小規模校とオンライン接続し、実施しているプロジェクト活動について相互発表を行う交流活動を実施。</li> <li>・最終発表会(2月) 1年間の活動の成果や学びを総括し、プレゼンテーション形式の発表会を校内で実施した。また、全国の高校生・教育関係者を対象としたオンライン発表会を実施し、代表プロジェクトが活動成果を発表した。</li> </ul>	<p><b>[アクションを通して課題解決を学ぶ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決を行う資質能力を総合的に育成する。</li> </ul>

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け  
(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

令和元年度から学校設定教科「地域みらい学」を設定し、その中に総合的な探究の時間の代替として学校設定科目「三陸みらい探究(5単位)」を設置している。令和3年度からは学校設定科目「ひよっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしmath」「おおつちラボ」「Eパスポート」の5科目を追加開設する。地域や社会の抱える複雑な課題に自ら問いを立て、教科で学んだ基礎学力を活かしながら、探究することのできる力を育む。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・3年生の理科の授業で地域に関わる課題をテーマにして物理、化学、生物、地学の視点

から解決方法を模索、検討、発表した。

- ・地歴公民科で防災を取り上げ、実際の災害に対してどのように対応するのか、歴史的な視点、地理的視点、公民的視点から考える授業を行った。
- ・令和3年度から始まる新しい学校設定科目を想定して各科目が地域課題探究の研究授業を行った。

#### エ 類型毎の趣旨に応じた取組について

今年度は他の地域協働校とオンラインでの探究交流を行った。生徒の探究活動のジャンルごとにグループを作り、グループごとに発表・質疑を行った。

※連携校 山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校

#### オ 成果の普及方法・実績について

地域との協働による生徒主体の復興推進活動「大槌高校復興研究会」に対する全職員での指導支援により令和2年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞した。

活動の内容や状況については学校ホームページで紹介している。また、大槌町の広報誌に毎月活動の様子を掲載し町内へ広報している。

各種報道機関へプレスリリースし活動を公開しており、テレビ・新聞等で取り上げられている。

管理機関が実施する各種会議等において本校の取組を周知し、地域と協働した教育活動による学校の特色化・魅力化を推進している。

### (3) 研究開発の実施体制について

#### ア 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメント推進体制

##### (2) ① (ア) を参照

令和3年度から新カリキュラムの実施

#### イ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

教職員は「三陸みらい探究」の授業を行うため、週に1度、事前に打ち合わせを行い、各授業のねらいや進め方について検討を行う。また各授業には学年を担当している教員も一緒に授業に参加し、グループのファシリテーターなどを行っている。

また、全教員を「カリキュラムマネジメント」「校則検討」「探究」「三陸みらい探究」「全国募集」の4つのワーキンググループに分けて定期的に研究開発を進めた。

#### ウ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究開発・推進に関わる各施策は、学校長の指示のもと副校長が主に担当しており、必要に応じて校務運営委員会や職員会議で諮られる。また校内教職員で行う、年度中間反省会議や年度末反省会議で成果や課題について共有し、取り組みについての意見交換を行う。

#### エ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

新しいカリキュラムについてコンソーシアム会議や魅力化構想会議の場で説明し、委員に検討してもらい助言を受けた。それを学校設定教科・科目に反映した。

また、三陸みらい探究で生徒の活動に対しても指導・助言をいただいた。



## 1 1 目標の進捗状況、成果、評価

### <添付資料>目標設定シート

本事業申請時に提出した目標設定シートに準じて進捗状況の成果を検証する。

#### (1) 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力を測るものとして設定した成果目標

下記指標に対する4件法による1学年へのアンケートの肯定的回答の割合

番	設問	R1 入学生 (2年生)			R2 入学生 (1年生)		
		R2	R2	差分	R2	R2	差分
		6月	2月		6月	2月	
1	<b>課題の発見と解決に必要な知識および技能</b>	67.9%	61.9%	-6.00%	59.5%	54.1%	-5.40%
	—自分で計画を立てて活動することができる	66.7%	52.4%	-14.30%	56.6%	53.1%	-3.50%
	—現状分析し、目的や課題をあきらかにすることができる	69.0%	71.4%	2.40%	62.3%	55.1%	-7.20%
2	<b>探究の意義・価値理解、地域社会との関わり合い</b>	61.9%	61.9%	0.00%	51.9%	53.1%	1.20%
	—地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	61.9%	59.5%	-2.40%	52.8%	53.1%	0.30%
	—誰かに言われなくても自分から勉強する	61.9%	64.3%	2.40%	50.9%	53.1%	2.20%
3	<b>課題発見・解決への指向</b>	69.1%	64.3%	-4.80%	67.0%	60.2%	-6.80%
	—情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	78.6%	64.3%	-14.30%	69.8%	59.2%	-10.60%
	—地域や社会での問題や出来事に関心がある	59.5%	64.3%	4.80%	64.2%	61.2%	-3.00%
4	<b>主体性・協働性</b>	65.5%	63.1%	-2.40%	58.5%	63.3%	4.80%
	—忍耐強く物事に取り組むことができる	61.9%	59.5%	-2.40%	67.9%	69.4%	1.50%
	—自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる	69.0%	66.7%	-2.30%	49.1%	57.1%	8.00%
5	<b>価値創造への提案と次へつながる学び</b>	50.0%	50.0%	0.00%	55.7%	49.0%	-6.70%
	—国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	33.3%	40.5%	7.20%	37.7%	28.6%	-9.10%
	—学習を通じて、自分がしたいことが増えている	66.7%	59.5%	-7.20%	73.6%	69.4%	-4.20%

#### [考察]

##### ・R1 入学生 (2年生) について

今年度の取り組みは、身の回りの課題解決に向けたマイプロジェクト活動であった。

自分で計画を立てて活動することや、情報の解釈に関すること等について減少がみられた。学年が上がったことによる学習内容の難化や、課題研究において自ら道筋を立てて活動していくことの難しさを知ったことが影響したのではないかと考えられる。

一方で、現状分析を行うことに対する自信や地域社会への関心については増加が見られており、今年度三陸みらい探究で実施したプロジェクト活動の中で、課題解決のための方策を考え、地域社会に働きかけを行う経験を得たことで自己評価にプラスの影響が出たと思われる。

##### ・R2 入学生 (1年生) について

今年度の取り組みは、自分の人生や地域の理想像に向けた提案を発表する活動が主であった。自分の考えをはっきりと相手に伝えることについては生徒自身が成長を感じられたが、それ以外の項目については課題解決の難しさを知ったことにより減じた可能性がある。

#### (2) 卒業生の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
B	卒業者の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合	55.6%	57.7%	70.0%

(3) 地域人材を育成する高校としての活動目標

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
A	生徒が外部団体へ本校の取り組みをプレゼンテーションする機会の回数	20回	22回	30回
B	外部から講師を招いて行う授業や講演会の回数	19回	12回	15回

(4) 地域人材を育成する地域としての活動指標

		R1 実績	R2 実績	目標値(R3)
a	大槌高校魅力化構想会議の年間開催回数	3回	3回	4回

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 学校設定教科「地域みらい学」および新しい学校設定科目の実施

すでに実施している「三陸みらい探究」に加え、新たに「ひよっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしmath」「おおつちラボ」「Eパスポート」の5科目を追加する。新科目の円滑な実施と適切な活動評価が求められる。

(2) 三陸みらい探究のルーブリック評価

ルーブリック評価については、目標とする項目について、生徒自身がその目標をめざしたいと思うことができるようにするための工夫が必要である。今年度はルーブリック評価表における評価項目を生徒に示しながら運用したものの、活動の中でその目標を意識させる機会に乏しかった。また、目指すべき姿を教員から一方向的に示すのみにとどまった。目標に基づいた自己評価の機会を増やしたり、生徒自身が総合探究を通じてめざしたい姿を考えたりする等の工夫が必要である。

また、運用にあたっての負担を軽減するため、評価項目のスリム化を行っていく必要がある。

(3) 継続可能な体制づくり

事業が2年目となり1年目よりも目標を明確にして取り組むことができた。取り組みの成果が実感できるほど生徒の成長を実感している。そのため、地域協働による探究活動が生徒の資質・能力の育成に効果があることを理解できた。一方、探究活動のサポートや新しい学校設定科目の実施など労力を要する仕事も多い。学校全体の業務の見直しも含め、事業を円滑に進めるための態勢の構築が必要である。

【担当者】

担当課	学校教育課 高校教育担当	TEL	019-629-6140
氏名	高橋直樹	FAX	019-629-6144
職名	主任指導主事	e-mail	<a href="mailto:takahashi-naoki@pref.iwate.jp">takahashi-naoki@pref.iwate.jp</a>